

道 徳 学 習 指 導 案

- 1 日 時 令和3年10月16日(土) 第3校時(10:50~11:40)
- 2 場 所 清瀬市立清瀬第二中学校 2年 各教室
- 3 授業・対象 第2学年 1組 男子16名 女子19名
 2・4組 男子17名 女子19名
 3・5組 男子17名 女子18名 計177名

4 学年の実態 中学校生活の半分を過ぎ、学習の仕方にも慣れてきて自分なりの取り組みをしている。また、部活動、行事なども学校の中心となって取り組もうとする姿が見られる。一方、SNS上でのトラブルを経験した生徒もいる。学校生活では周りの様子を察知しながら過ごしているが、気の合う仲間と一緒にになると気が大きくなり、その場にいない人に関する不用意な言動をしてしまう一面も見られ、他を省みない行動に走る場合がある。

5 主 題 B- (6) 思いやり、感謝
 資料名「心に寄りそう」

6 主題設定の理由 中学生になると、人間愛に基づく他の人との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくるが、自己中心的になったり、グループ化もしやすくなったたりして、仲間以外の人には思いやりの心をもって接することができない面もある。このような時期に、誰もがかけがえのない人間であることを自覚し、他の人の気持ちに寄り添いながら、温かく接するとはどういうことなのか考え、深め合う授業を行いたいと考える。

7 本時のねらい 「心に寄りそうことの大切さ」を学んだ山田さんの姿に共感することを通して、相手の立場や気持ちを尊重し、誰に対しても思いやりの心を大切にして接しようとする態度を育てる。

8 本時の展開

段階	学習活動	発問と予想される生徒の反応	留意点
導入 5分	1 相手のことを思っ て行動したことにつ いて自分を振り返っ て考える。	T: 言われて嬉しい言葉には、どのようなものがある だろう。 T: どのような時に家族や友達、仲間などを励まし たり応援したりするだろうか。	・生徒が自分の生活 の中で心がけ、生か していけるように、 自分自身の生活を振 り返りながら、考え ていけるようにして いきたい。

<p>展開（前半） 15分</p>	<p>②「心に寄りそう」を読んで話し合う。 「心に寄りそう」範読</p> <p>①補助発問 山田さんが「視線を合わせてあいさつをする」ようになったのはなぜか。</p> <p>②中心発問 山田さんが大切なことだと学んだ「相手の心に寄りそう」とはどのようなことか。</p>	<p>T: 山田さんが「ちゃんと一人一人の患者さんに対してあいさつ」しているのはなぜだろう。 S: 自分にはあいさつをしてくれなかったと思う患者さんがいた。 S: 患者さんとの心の距離も近づきやすくなるから。 S: 近くで声をかけないと伝わらないことが多いから。</p> <p>T: 山田さんが大切なことだと学んだ「相手の心に寄りそう」とはどのようなことだろう。 自分の考えをノートに書こう。 T: 発表しよう。 S: 一人一人の患者さんの立場を尊重する気持ちをもつこと。 S: 看護師さんも患者さんもお互いが支え合っていること。 S: 自分は一生懸命に患者さんに心配りをしていたが、自分も患者さんに助けられていたと気づいた。</p>	<p>・山田さんは当初、何に悩んでいたかを考えさせる。</p> <p>・時間を十分に取って深く考えさせるとともに、他の生徒の考えをじっくり聞くことができるようにする。 ・思いやりの必要性だけでなく、具体的な接し方、看護の仕事は患者さんとの会話が大切なことに気づかせたい。</p>
<p>展開（後半） 25分</p>	<p>③相手の心に寄りそいながら接していくために心がけることについて話し合う。</p>	<p>T: 相手の心に寄りそいながら接していくために、どのようなことを心がけていけばよいだろう。 自分の考えをノートに書こう。 T: 班内で発表し合おう。 T: 班ごとの意見を発表し合おう。 S: 相手の気持ちを考えること。 S: 目を見て話すこと。 S: 自分の思いだけで行動するのではなく、お互いが助け合うという気持ちを持つことが大切だ。 S: 接する相手の立場を尊重して、お互いが支え合うことを大切にする。</p>	<p>・話し合いを通して学んだ「お互いの立場を尊重し合う」ことについて、今の自分を振り返り、道徳的实践意欲や態度を育てる。 ・他の生徒の考えをじっくり聞くことができるようにする。</p>
<p>終末5分</p>	<p>③本時のまとめ 担任の説話をする。</p>	<p>T: 今日の学習を振り返って、学んだこと考えたことを書こう。</p>	

- 9 評 価
- (1) 相手の心に寄りそい、よりよい人間関係を築いていこうとする意識を高めることができたか。
- (2) 相手に接するとき相手の気持ちを理解するためには、どのように行動し、どのように態度に表せばよいか、自分なりの考えをもてた。